

第3回南城市地域交通会議 議事要旨

日時：平成27年3月5日(木) 10:00~12:00

場所：南城市役所 2F 玉城農村改善センター ホール

< 出席者 >

団体名等	氏名	備考
南城市	座波 一	会長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副会長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	成田 佳奈子	
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄総合事務局 南部国道事務所	照屋 悟	
沖縄県（南部土木事務所）	吉田 繁	
与那原警察署 交通課	平 晃	
一般社団法人 沖縄県バス協会	慶田 佳春	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	津波古 修	
私鉄沖縄県労働組合連合会	佐久川 正実	代理
沖縄バス株式会社	親川 武司	
株式会社琉球バス交通	大城 幸和	代理
東陽バス株式会社	普久原 朝啓	
南城市民生委員児童委員連絡協議会	大城 宏光	
南城市区長会	新城 辰夫	
南城市観光協会	屋我英樹	代理

< 議 事 要 旨 >

1.実証実験の利用状況(中間報告)について

発言者	発言
親川委員	有償の際、運賃収入はどれぐらいあったか。今後の運賃について再検討するのか。有償になると利用者が減ると想定していたが、減り幅は想定内か予想より減ったか教えてほしい。
事務局	運賃収入は、約 36 万円/月。運賃については、アンケート結果等を踏まえ、必要があれば変更も検討する。利用者の減少幅は、想定したよりも小さかった。年末年始の利用者は落ち込んでいるが、2～3 月には増えてきている。
吉田委員	50 代の利用が大幅に増加しているように見えるが、65 歳未満の登録者は全体の 0.7%に留まっているので、浸透していないのではないか。また 4 月以降、通学や通勤の利用も見込めるのであれば、積極的に 65 歳未満の登録もするべきではないか。
事務局	通勤通学の場合には市外も多いので車や路線バスを利用していると考えられる。50 代が増加しているのは、市内の飲食などでデマンドバスを利用しているのではないか。65 歳未満の登録者に関しては、アンケート結果を踏まえ、解決策を見出したい。
慶田委員	有償化しても、市外へのアクセスにデマンドバスを活用しているのかがえるが、バス停などで降りられた人の目的地はどこか分かるのか。その調査もするのか。
事務局	実施中ではあるがアンケートで、市外に向かった方にはどこに行ったのか聞いている。改めて集計結果は報告する。
神谷副会長	もし通勤通学を考えるのであれば、6～7 時台が必要になる。その場合には、入学などの資料と一緒に配布するのも良い。医療機関への利用の減少が大きいのが気になる。デマンドバスは高齢者の外出など福祉的な意味合いもあるので、高齢者や障がい者割引など検討してはどうか。
事務局	通勤通学での利用は、地域公共交通の利用実態調査実施を検討しており、その調査で対応したい。医療機関への利用は、見舞いでの利用が減少したことが要因と考えられる。また高齢者への割引についても、現在実施しているアンケート結果を踏まえ検討したい。
津波古委員	次年度の国交省の調査の中で、タクシーの利用状況もアンケートに組み入れることはできないか。
事務局	できるだけ多くのデータを取るようにする。

2. 実証実験の評価(中間報告)について

発言者	発言
成田委員	デマンドバスにはルートがないが、国交省のフィーダの補助を考えているのであれば、幹線への結合が重要となる。馬天営業所の利用が多いというアンケート結果もあるので、それも踏まえて検討すべきである。
事務局	幹線結合等も含めて調査を進める。
慶田委員	調査結果で、待ち時間に対しての不満が多いが、予約して迎えに来る時間はどれぐらいなのか。
事務局	1時間に1便の運行であるが、予約を受けた際にオペレータが、到着予定時間に10分前後余裕をみてもらうように伝えている。人によっては10分待たされたのを待ったと感じられる人もいる。タクシーのような貸切ではなく乗合という公共交通なので、理解してもらいながら運行していきたい。
屋我委員代理	通過型観光から滞在型観光へ至ってないところがあるが、確かに宿泊施設は、ユインチホテル以外には、古民家やペンションなど個人向けの宿泊施設ではあるが、デマンドバスは、おきなわワールドや奥武島などバス便が悪い場所へ行くのに便利であり、滞在型観光に寄与している面もある。
事務局	滞在型観光は、南城市内での宿泊に視点が行きがちである。日帰りが多いが、市外に宿泊しても、イベント期間中に南城市を往復して観光するのも滞在型観光として取り扱ってとりまとめた。
神谷副会長	沖縄県全体でもビギナーの割合が2割程度に下がっているのだから、デマンド利用者に占めるビギナーの割合2割は、問題視する数値ではない。デマンドバスにロガーは付いているのか。
事務局	ロガーは付いており記録も残している。
神谷副会長	<p>待ち時間が長い理由をロガーで確認できる。時間通りに迎えに行ったが、利用者の準備が遅くなり、次の迎えが遅れたのか、それとも、迎えるのに時間がかかったのかについて確認する必要がある。</p> <p>利用者の増加に向けては、高齢者はあまり生活スタイルを変えないので、イベントなどで実際に乗って体験して、乗り方を分かってもらおうと良い。他の都道府県に事例もあるのでイベント的に考えても良いと思う。</p> <p>路線バスだとバスナビなどでどう行くか検索できる。観光客向けに公共交通機関での遊び方を提示する必要がある。他の市町村でもコミュニティバスなど運営しているが、市町村だけでは路線バスとの連携はできない。コミュニティバスや路線バスの情報をつなげる仕組みが必要である。</p>
事務局	デマンドバスが遅れている原因については、確認し調べる。体験乗車は、前々からご意見いただいているが、次年度に実施できるように努力する。県と市町村との連携については、検討しながら進めていきたい。

3. 平成 27 年度の有償実験事業の進め方(案)について

発言者	発言
慶田委員	料金の見直しについて、適正と思う運賃が 199 円とあるが、料金は引き上げるのか引き下げるのか。
事務局	引き上げるのは厳しいと思う。高齢者など条件付で引き下げるのはあると思う。アンケート結果等をもとに検討したい。
親川委員	通勤通学にも使うのなら時間の見直しが必要ではないか。デマンドでバス停まで行ってバスに乗り継ぐ人には、割引があると良い。
事務局	検討したい。
古堅委員	H27 年度は公募だが、H26 年度の企業とは別の会社になるのであれば、実験が途切れないように運輸局と調整をお願いしたい。
事務局	公募で運行会社が決まり次第調整をお願いしたい。
神谷副会長	無償と有償のときで、1 台あたりのピークは何人ぐらい乗っていたか。10 人乗りが必要かどうかも含めて検討が必要。
事務局	無償時、有償時ともサークル等の団体利用があると満車となることもあるが、無償時のピークは 13 時台の平均 9.9 人/h で 1 台あたりの利用者数は平均 2.7 人/台となっている。また、有償時のピークは 11 時台の平均 5.9 人/時で 1 台あたりの利用者数は平均 2.1 人/台となっている。
神谷副委員	実態に合わせた車のサイズでも良いのではないか。また、運転経費について、H26 年度の 5 台のときと H27 年度の 3 台のときがあるが、台数が変わっても人件費はあまり変わらないものなのか。
事務局	シルバー人材への委託から、交通事業者への委託と委託先が変わり、台数が減っても人件費はあまり変わらない結果となった。
平委員	車両の管理などはどうなっているのか。
事務局	事業所は、那覇市識名にある。そこで点呼して出発している。運転手の入れ替えは、南城市で行っている。
座波会長	H27 年度の有償実験の進め方、運行計画、運営体制について、本議会です承を得た旨を、会長名で提出することに異議はないか。
全委員	異議なし。